

●春日部市民文化講座（第6回）

◆日 時：2013年6月12日(水) 10時（ぼぼら春日部6階会議室）～11時

◆テ ー マ：講演「表具の話」

講師：江原 望さん（美術表装「江原小林堂」）

◆ゲスト紹介：1968年：埼玉県越谷市生まれ、埼玉県立越谷西高校卒。1987年：加麗堂 表具弥三次氏に師事。1990年：江原小林（えはらしょうりん）堂三代目として入店。2003年：技能グランプリ全国競技大会入賞。2007年：埼玉県技能競技大会 最優秀賞。埼玉県表具内装組合連合会理事。古来よりの裂地とその裂使いを探求し、伝統的な表具技法を実践している。



■柔道三昧の生活から表具の道へ

表具師の江原小林堂と申します。越谷のほうで、私の祖父の代、戦後すぐに開業いたしまして私で三代目になります。実際、私は子どもの頃は表具屋になろうとは考えておりません。家業でありながら表具のことはあまり知らなかったのです。もちろん何時も見ていましたので、襖を張ったり、掛け軸を作ったりする仕事だということは知っていましたが、内容については関心がありませんでした。高校生まではほとんど柔道ばかりやっております、進学して警察官にでもなれればいいかなあ・なんて思っておりましたが、それまで何も言わなかった父が、高校3年生の頃、仕事のことを話してくれたのです。情けない話ですが、私はその内容をほとんど覚えていないのです。ただ一つ覚えていることは、「仕事を手に付けば食いっぱぐれはない」ということです。よほど素直だったのか、それを信じて迷わずに方向転換をして、何となく自然に表具の道に入っていました。私自身が元から物づくりが好きだったというのがありますけれども、自然の流れの中で表具屋になっていきました。

■もったいないことをしていた修行時代

ありがたかったのは、外に修行に出されたことです。今ではほとんど無くなってしまいましたが、当時はまだ徒弟制度が存続してまして、その中で基本を仕込まれました。表具屋の倅だということで入れていただいたのですが、実は何も知らない若造だったので、店の方はとても驚いたことと思います。そんな状態でも入れていただいたのが、東京の加麗堂さんという表具屋さんです。こちらは屋号で言う方はほとんどおらず、皆さん「表具さん」と呼ぶのです。実は名字が「表具」さんという珍しい名前の方で、元々は加賀の前田家お抱えの表具屋さんで、殿様から拝命した名前だそうです。表具さんのところでは、古い掛け軸離仕立て替えなどをやっていました。普通であればガラス越ししか見ることでできないような墨跡ですとか、古筆裂などの作業をしている訳です。当時は、自分がやらなければいけない店の雑用と仕事を覚えるのが精一杯で、そこまでは頭が回りませんでした。今ではもったいないことをしたなと思います。

■裂地に対する愛着

お茶関係の仕事では遠州流と宗編流に御出入りさせていた表具屋さんですので、そうした御流儀の仕事もたくさん見させていただきました。特に遠州流では「きれいな寂び」と言いますね。あの独特の好みというのが表具にも現されていて、独特の色使いとか裂使いというのは、見ても楽しいものがありました。当時は何も分からない状態でしたが、見ているととても楽しい取り合わせでした。千家さんの侘びたものとの違いというのは、一目見て分かります。裂使いというのは、私の親方の表具さんというのはとても詳しい方として、また珍しい古い裂などもたくさんもっていらしゃいました。古い作品を表装するときには、古い裂地というものが必要になってきます。新しい裂地で表装するとちぐはぐな感じがでてくるのです。時代に合わせた裂地をなるべく使いたいの、古い裂地をたくさん集めるというのは当然のことなわけですが、表具さんは何よりも裂が好きだったのだらうと思います。今になると私でも分かるのですが、良い裂を見ると仕事に使いそうでなくても欲しくなるのです。それは好きだからでしょうね、裂に対して愛着があるからだらうと思います。良い物をたくさん見てきたからだと親方に感謝します。

■裂地は織物

表具で使われるのは織物です。織物というのは先染めと言いまして、先に色を染めた糸で織り出されたものです。書いたり染めたりしたものではなく、その織りの変化で模様を出したものです。いろいろな織り方によって種類がたくさんあります。最初に「織物の組織」と書いてありますけれども、平織（ひらおり）、綾織（あやおり、斜文織）、襦子織（しゅすおり、サテン）、緞織（もじり織、からみ織）というのが代表的な4つの織り方です。単純な織り方から平織、斜文織、朱子織、もじり織となりますね。裂は、その主たるものを如何に引き立てて、一緒に一つの世界を創る。そのためにどうやって裂を選ぶか、それは自分の美意識というか、表現の方法ではないかと思えます。

茶会でお目にかかる表具さんのお弟子さんだったことに驚き、裂地の種類や味方はとても勉強になりました。